

平成24年度 多可町生活創造大学 暮らし生き活き科 提言

暮らし生き活き科では、『生き活きと暮らそう「ふるさと」とともに』をテーマに多可町の田舎ぐらしを、生き活きと楽しむことをコンセプトとして活動しました。

学外研修「ベンガラが語りかける吹屋ふるさと村」では、岡山県高梁市へ、今は廃校となっている吹屋小学校と吹屋街道を訪ねました。

歴史講座「八千代今昔物語」では、大屋博多と播州織について脇坂先生から、知られざる郷土の先人たちが立ち上げた伝統産業の歴史を学びました。

環境講座「クマともりとひと」では、熊や鹿たちが棲める森は人間も住める森として、豊かな森を次世代へ伝える自然保護や環境問題について学びました。

健康講座「このまちで生き活きと生きる」では、在宅ケアと地域医療について、多可赤十字病院院長の松浦先生より、今そして老後に至るまで安心して住み続けることができるまち多可町、包括ケアネットワークの大切さを教えていただきました。

そして、郷土料理と餅つき「田舎を楽しむ伝統食事」では、特に杉原谷地区の七茶ごはん、凍コンニャク料理に舌鼓を打ち、餅つきをして楽しみました。

都市部から「近い田舎である多可町」、都市部から見て「中途半端な田舎の多可町」を、田舎を求めて多可町へ来られる都市住民をも巻き込み、多可町に住んでいる私たちとともに「田舎ぐらし」を楽しむ仕掛けづくりを考えたいと思います。

【1】田舎（多可町）の伝統行事と伝統料理（郷土料理）の継承を！！

多可町には、人々の暮らしの中から生み出された風習や行事の中から生まれた行事食があります。しかしながらそれは時代と共に消えつつあります。伝統を絶やさないためにも、教えてもらう立場、次世代へ伝える立場として学習出来る場所の提供を、お願いします。集落行事や各家庭の伝統食・行事食の再現講習の実施、レシピ集（写真を中心として）の発行が出来ませんか。実現、実行されることを望みます。

本町では、今後の展開として（仮称）「生涯学習センター」の建設を計画されると聞いておりますが、そのセンター内で気軽に、伝統食および行事食を調理したり、食したりできる場所「調理室（例えば“かまど”などのコーナー設置）」をお願いします。子供たちや若い母親（父親）たち、様々な世代が気軽に集え、立ち寄ることで、伝統行事や伝統食を再現し、伝え、世代を越えて生き活きと楽しむことが出来れば、田舎らしさが活きる町になると思います。